

令和4年度 第1回総合教育会議 会議録概要

1 開催日時 令和4年10月18日(火) 午後3:30～5:00

2 場 所 飯山市役所 4階 全員協議会室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 松木英文
同職務代理 吉越邦榮
委員 西條三香
委員 平野弘蔵

4 出席した事務局職員

教育部長 湯本與志一
文化振興部長 田中良則
課長補佐兼学校教育係長 浦野昭彦
学校教育係 二ノ宮国明
学校教育係 佐藤優季子

5 会議の経過及び発言

1 開 会

教育部長)

皆様大変お疲れ様です。定刻となりましたので、令和4年度の総合教育会議を開会させていただきますと存じます。

本日、小林教育委員は所用で欠席となっておりますのでよろしくお願いいたします。最初に本日の連絡事項3点についてお願いを申し上げたいと思います。教育委員の皆様には事前に資料をお送りさせていただいているところでございますが、まず、資料の確認からお願いしたいかと思います。最初に次第、続きまして本総合教育会議の設置要領、資料1、資料2、資料3となっております。なお、資料2-2につきましては、一部コロナの関係の情報を最新の物に差し替えさせていただきたいということでお配りさせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。2つ目でございます、本会議につきましては設置要領の中で公開と決めさせていただいております。後でまとめます議事録等もある訳ですが、個人の秘密等につきましては一部非公開という形で対応させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。最後に本日の会議の終了の予定時刻を16時45分というふうに予定させていただきたいかと存じます。

それでは開会にあたりまして、足立市長からご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

市長)

大変ご苦勞様でございます。本日令和4年度の総合教育会議ということでそれぞれ教育委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

さて、総合教育会議という形ができて、市長部局として私、それから教育委員の皆様とこうした形での取組ができて、様々な課題につきまして進めさせていただいたという経過がある訳であります。特に、教育全体としまして教育大綱を策定して進めようということでございまして、第1次の教育大綱ができて、それに基づき様々な教育の関係の事業を進めてきていただいた訳でございますが、教育大綱という一つの大きな柱ができたということで、非常に目に見える形で教育のそれぞれの分野の物が進んだというふうに思う訳でございます。本日は第2次教育大綱が策定されてからの進捗状況について御報告をいただきますとともに、新型コロナウイルスの関係もまだまだ治まっていない訳でございますが、そうした観点で対応等について御協議いただければと思います。もう一つは、現在進めております城北中学校区新統合小学校の整備に関する件ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後になりますが、私事ではございますが、今月27日が退任日ということになっております。今まで皆様方に大変お世話になりました。また是非、教育委員会の皆様方のお力で飯山市の教育を着実に進めて行っていただければ大変ありがたいかと思ひます。

教育長)

皆様お疲れ様です。今日の総合教育会議は、今市長からお話もありましたが、足立市長と最後の総合教育会議ということになります。市長は3期12年の間飯山市政に携わってこられ、教育行政につきましてもたくさんの示唆をいただき、また舵取りもしていただいております。市長が退任された後、教育行政の方向をどういうふうにしていくかということを確認する会でもあるのかなというふうに思ひますので、是非そんな意味でご審議の程をよろしくお願ひしたいというふうに思ひます。

3 議 題

- 1) 第2次教育大綱の進捗状況について
事務局から説明（非公開資料）

【資料1】

市長)

只今、事務局の方から説明がありましたけれども、皆様の方で何かご意見、ご質問があればお願ひします。

令和2年と3年についてはコロナの関係で、特に公民館活動等対外的な活動がなかなかできなかったということがあると思ひます。

何かご意見いかがでしょうか。

平野委員)

4頁の国際化・ICT化とともにというところのICT教育の推進に関わって少しお話をさせていただきたいと思ひます。足立市長さんものこの部分につきましては、力を入れて支援をしていただいております。GIGA スクール構想、またコロナの感染状況もあり一人一台端末が一気に進みました。また飯山市では大型モニターや電子黒板を入れたりするなど、非常に進んできております。そして更にプログラミング教育についても、STEAM 親子実験教室を行うなど、いろいろな部分で進んできているかなと思ひます。今後はデジタル教科書ということも出てはいますが、実際にデジタル教科書の活用も含めて、授業のど

んな場面でタブレットを使うのが効果的なのかという研修が必要になってくるのではないかと強く思います。つまり、先生方が本当にタブレットを活用した ICT 教育・学習というのがどんな授業をしたいのかというイメージを持っているかというのが大事になってくると思う。個別、最適な学びとか、学びの多様性とか、協同的な学習・学びというようなことが言われている訳でもありますし、そういった部分には十分活用できるのではないかと思います。また、児童生徒がクラウドによる同時共同編集を用いた授業、県の ICT 教育センターにも事例があるのですが、そういったものを見ながら、ある物をどう使っていかかということが、これから各学校に課せられているのではないかと思います。それから、プログラミング教育についてですが、学習指導要領では5年生の算数で多角形を描くプログラムの作成や6年生の理科の実験で電流を制御するというような内容も入ってきていますので、これはカリキュラムとして入ってきていますので全国どこでも行われる訳ですが。この間、市の ICT 活用委員会さんの話を聞いたら、市内の全ての小学校の4年生の理科でモーターカーを目的に沿って動かすプログラムを試行錯誤しながら組むような授業を位置づけたいなという話があり、プログラミング教育が進んでいくというような、そんな期待を持っているところでもあります。そんなふうに感じているところを少しお話させていただいて、今後期待したいところは、やはり授業で活用するには準備を含めてトラブルに即時対応できるような、きめ細やかな ICT 支援員の配置が必要だと思います。また今後、故障への対応だとかが大事になってくると思いますし、聞きますと家庭学習でタブレットを用いたドリル学習等の宿題を出したいのだが、ネット環境が無いために宿題での利用ができないという現状があるとのことですので、実態を把握していただき、モバイルルーターの貸し出しも、何台かあるようですが、足りているのかも含めて検討していただければと思います。以上です。

市長)

県にも総合教育会議というのがありまして、知事が招集し、市町村長からも出ているのですが、私は市の代表で出ています。まだオンラインで1回しか開催されていないのですが、私がたまたま市長会の副会長をしていて、副会長は県の総合教育会議に市代表で出るようになってきているのだと思います。その中でも問題になっているのは、ICT 教育をどういうふうに進めるのかという流れが県の方でも具体的にこういうふうにやれば進めるという段階ではなく、現状では各学校によって ICT に長けた先生がいるクラスはいろいろやっているが、全体としてはなかなかそこまで行っていないのでそこが課題となっています。何が課題かという、やっぱり人材がなかなかいないということで、現状の小学校でいうと、今でさえ大変なのに、更にプログラムを教える、自分が教えるための勉強をしなければなりませんよね。現場とすれば、とてもそんな余裕はないという声もあるらしいです。小学校で教えるとなると、担任の先生が教えなければならないです。そうすると担任の先生が新たに小学生にプログラミングを教えるというのはとても大変だと思う。自分で新たに覚えるのも大変だが、子ども達にプログラミングを教えることはもっと大変だと思う。だから教える側の体制や教え方とか、普通ですと教科によって完全に指導用の教科書とかしっかりできていますが、それができていないというのが現状です。私も意見を求められたので、最近では小学校でも教科担任制になってきているという話なので、例えば ICT やプログラミングを教えるものについては、教科担任制や民間で訓練をされた人達のように多彩な人材を使うなどしてはどうか。民間の方が子ども達に教えるという教え方の問題もありますが、やはり長けた人を訓練するなどしていかないと ICT 教育が

進まないと思う。ICT 教育は2種類あると思うが、一つは今のようなプログラミング教育で、それはある程度専門の方に力を借りてやっていかなければ、一斉にやっていくのは難しいと思う。もう一つの ICT 教育というのは、先程平野先生もおっしゃっていたテキストのデジタル化、授業そのものをデジタル化していくことだが、教科書をただデジタル化してもあまり意味がないと思う。ペーパーをテレビや画面に置き換えただけでは意味がないと思う。私たちもやっているが漫画を紙で見るかタブレットで見るかということで一緒だと思う。もう少し本来のデジタルの力を活用したような教育をやらなければいけないと思う。そのカリキュラムもできていないと思うので、そういうものを作っていかなければいけないと思いますが、この前の会議でもなかなか進んでいないみたいでした。

前に松木教育長と平野先生がおっしゃっていた、STEM 教育は実は結構高度なんですよ。極端に言うと、ゴールはロボットを作るような感じで、ある目的を持ったものに対して、自動的に判断していくようなものがゴールだと思うが、とてもそんなことはできないので、まずはコンピューターに自分で命令をして、明かりを付けたり消したりするプログラムをやる訳です。コンピューターは小さいんですけど、LED が付いていてチカチカできたりとか音を出したりできるんですよ。それをパソコンにつないで、プログラミングそのものはブロックみたいな格好をしていて、それを組み合わせる訳です。普通は英語で命令しなければならぬのですが、小学生がそれはできないから、簡単にコードになっていてそれを組み合わせると光ったりするわけです。それは最初親子プログラミング教育なので、お父さんかお母さんと小学校4年生以上でしたけど、初級で10組くらい参加していたが、やった感想は、初級でもなかなか子どもが完全に理解するのは難しいということです。中級になるともっとレベルが高くなり、難しくなる。先生は科学技術関係の高校でそういったことを教えている先生だったので、教え方は先生だが、最後は少しステップアップして自分で考えなければいけないような問題を出すので難しいです。そこに参加している子どもはある程度関心を持っている子だと思うが、そういったことを初級でもクラス全員に理解させるのは難しいと思う。2回目の初級の教室の時には1人の子は途中で嫌になって他のことをして、お母さんが一生懸命やっていました。本格的なプログラミング教育は難しいので簡単なことからやっていくのだろうけど、なかなか難しいと思いました。やりたい人が来て試してみるなら面白い勉強だが、学校で必須科目として全員理解させなければならぬとなると大変で、子ども達も付いてくる子が一部になったりすると思う。全員ができる必要はないと思う。それができないとどうこうある訳ではないので、好きな子は伸びていくというようなレベルで、他の子はこういうふうなことをやれば何かできるのかという程度でも良いと思う。年齢を経ていけばだんだん理解できるようになってくると思う。なので、ICT 教育はまだ教える側の体制が整っていないですよ。本当はもう少し長野県も力を入れてくれれば良いのですが、なかなか県もそこまではいかないようですけど、飯山市のそれぞれの先生方も研究会をやっているんですよ。

学校教育係長)

次年度以降、先生方に教える民間の ICT 支援員を配置するというので、委員会も組織しています。教える側も1時間が45分しかないので全部要約して教えるのは難しいことだと思うので、そのためのカリキュラムを作成して、かつハード面では既にそろっているのでそれを活用するところまで追いついていないという現状がありますのでその辺が課題だと思っております。

市長)

研究事業はやってらっしゃるんですね。

教育長)

いろいろな教科で研究事業はやるのですが、ICT を使ってやる場合も増えています。ICT を勉強することが目的ではなくて、学習に ICT を使うということです。

市長)

今市の方で、DX の研究をどういうふうに進めるかという計画を策定していて、来年度にそれができるのですが、その中で当然教育の分野も入っています。ICT の機器を使ってどう勉強するかということが、先生方が自分達の教える教科をどういうふうにするのかという、まさにプロフェッショナルであればいいのだけれど、ICT やプログラミングについては、授業の中では教えることはできないと思う。例えば民間で教える人がいても授業の中で正式に教えることは教員免許が無いので、できないですね。

教育長)

担任の先生がそこにおいて、支援員として教えることはできます。外部講師のように。

市長)

研究授業のような形で何回か実験的にやってみたらいいと思う。そのお金は今の加配の先生と同じような考え方で市教委が確保すればいいと思う。デジタル人材のリソースがなかなか無いという話もありますが、教えるのが上手な人を見つけてきて実際にやってみると、どこが課題なのかということが分かってくるのではないかと思う。もちろんさっきみたいに外で教育委員会の事業とは別に、今は公民連携室がやっていてそれはいいと思うが、学校教育の中でどのようにやっていくのか実験的に試してみるのも面白いと思う。そういう部分の予算は市が確保しないとイケないと思う。

教育長)

ICT で去年も来ていたよね。シャキントだってプログラミングは教えられるんだよね。

学校教育係長)

来年度、令和5年度にはまた、やる予定になっています。

市長)

プログラミングというか、物事を進める時にプログラム言語を書く時に、どういうふうに進めるかというフローチャートを作って、それをプログラム言語に置き換える。最初にそれを作るような頭の発想を順序立てていかないと、途中を抜かしてしまうと次に進めなくなってしまいます。だからそういうところから勉強していくのだけれど、教えるいい人材が一番必要だと思う。興味を持たせるようにしないと、それ自身を面白くないと子どもはすぐに飽きてしまう。試験的にやってみたらいいと思う。

伊那市は教育の分野が分からないが、実際に様々な ICT を使った民間企業と連携していろいろなことをやっている。一つは市のバスを自動運転で走らせている。それは地面の下に何かを入れていてそこを走らせている。それから、ドローンで山間地へ荷物を

配達するなどいろいろなことをやっているが、やはり試行錯誤ですよ。飯山市は教育の子ども達の分野で始めていければいいと思います。

教育長)

一ついいですか。平野委員から教員の研修をとということがありましたが、実は去年と今年で飯山市の先生の意識が劇的に変わっていると私は思いました。その引き金になったのは、電子黒板の導入です。導入して使い始めてみたら、今までの単なる大型モニターとは違う、使い勝手があるぞという意識が先生達に生まれてきている。いろいろな学校で研修会をやったのですが、今までの研修会への取り組み方と先生達の姿勢が全然違っているなということを感じました。なのでこれが一つの起爆剤になって昨年よりも今年の方が先生達の中で ICT を活用しなければいけないという意識が非常に高くなってきています。なので、今市で ICT に関して力を入れて取り組むということは、大事なことだと思っています。また、今プログラミング教育が話題になっていますが、学習指導要領にもプログラミング教育をやらなければならないと書いてあります。その理由は先程市長も言いましたが、論理的に筋道を立てて落ちなくやっていくという思考の仕方を学ぶということです。それが大事でやるようにと示されていますので、学校の先生達にもしっかりと教えていかなければいけない部分ですので、専門の方、その分野に長けている方を活用していくことが必要だと思っております。

市長)

ネット環境がない家庭がもしあれば、市で補助を出せば良いと思う。あるのかないのかというのは調べてあるのですか。

学校教育係二ノ宮)

市教委で取りまとめてはいませんが、学校毎には把握しています。

市長)

Wi-Fi が無いとダメなので、市のアイネットであれば、テレビの入っていない家もあるかもしれないが全ての家に引っ張れるようになっている。近くの電柱まで線は来ていて、アクセスポイントは有るので、工事費と使用料だよ。そういう物に補助していくのは可能だよ。もちろん勉強にだけじゃなく、何にでも使えるものですけどね。教育だけでなく例えば災害の時にすぐに分かるとかそういうことも大事な事なので、これは学校ではなく市の対応ですが、調べて対応していければいいと思う。実際に何件かあるのかな。

学校教育係長)

あります。

市長)

給食費の補助と一緒にですよ。
他に何かありますか。

吉越職代)

最近自分が経験したことの中から自分は視野がすごく狭かったなと思ったことがありまし

た。世の中が変わってきて教育の方向もいろいろ変わってきて、今までの大きな価値観を変えていかないと今の子ども達に対応できない状況になっていくのかなということがいくつもありまして、その話をしたいと思います。まず一つは不登校の関係ですが、不登校が減るのはとってもいいし、学校によってはいろいろな先生方がシステムを作ったりしていますが、昨年視察に行った、いづなコネクトのフリースクールの市川先生と先週飯山駅で会いまして、これから北海道へ下町ロケットをやった人のところへロケットの飛ばし方を研修に行くと言っていました。フリースクールでそれを導入して子ども達に教えるために、長野県のいろいろなところに声がかかって、フリースクールの代表の方々と新幹線で合流しながら羽田から北海道へ行くという時に話をしました。市川先生のところへ他の市町村からフリースクールを立ち上げたいのでぜひ力を貸してほしいとか、またフルスクールの担当者同士のネットワークの中で情報交換をして、私は学校へ行くのが一番というふうに長く思ってきたし、今も基本的にはそういう考えなんですけど、でも今の子ども達が独り立ちをして自分の力を最大限に発揮するような伸びをしていくには、私が想像できる範囲を超えた物がある、世の中そういうふうに進んでいるのだなとしみじみと感じました。市川先生も 360 度いろいろなところに色々なものが転がっていて、本当に忙しい整備をするのも大変だとホームでお話をしました。フリースクールをぜひ作ってほしいという訳ではないのですがニーズがあればそういうことも考えていかなければいけない状況にあるのかなと思いました。

二つ目は、岡山県の備中松山城へ行って高梁駅というのがあるのですか、そこで降りたら、隣のショッピングセンターの入口が全面ガラスになっていて、そこが市立図書館でした。1階にはスタバが入っていてその奥に蔦谷書店が入っていて、2階3階が市立図書館です。駅から出てスタバがあると寄っていったら、市立図書館と書いてあって、図書館というのも新しい学校の中でどういうふうに位置付けていくのか大事だなと思いつつ、図書館というのは、こういうふうに公的な立場で学校を出てもそういう位置付けができています。幼児を連れてお母さんがゆっくり図書館から降りてきてスタバに並んでそこで子どもをあやしながらゆっくり休んでいくところを身近に見れて、図書館ってこうなのかと思いました。近い内に図書館のこと、市川先生のこと、私の生きてきた価値観を砕くそういうような状況を目の当たりにしたのでお話ししました。以上です。

教育長)

フリースクールの関係ですが、実は来年度から教育支援センター、いわゆる中間教室という昔あった教室を立ち上げられないかということで動いています。ニーズがどれだけあるかというのは全く分からないのですが、長期欠席の不登校の子ども達の数は、コロナ化の影響もあるのか、確実に増えているので、多様な学びの場を確保することが大事なことなので、市としても設置していくべきだということで動き始めています。

図書館についてはおっしゃる通りで、今までの図書館という考え方を学校の先生方から変えていかなければいけない、そういう時代になっています。今までの固定観念の中でこれからの時代に合わないというものはあるし、前々から大事にしているものもあるのでその両方を併用しながらやっていくということが大事なかなと思っております。以上です。

学校教育係長)

今回の城北中学校区の統合小学校も正面玄関から入ると、メディアラウンジということで図書館あり、吹き抜けになっているので、長野県の中でも中々そういう小学校はござ

いませので、新たな取組ということで、図書館と言えば静かに本を借りているという概念があるのですが、今回の統合小ではそれを真ん中に置いて、誰でも入り交流ができる場ということになっております。この後立体映像の中でも出てくると思いますのでまたご覧いただければと思いますのでよろしくお願いします。

教育部長)

議題の(3)でご案内してありますが、整備事業の今の状況をですね、画面で見れるように設計業者をお願いしておりますので、今の状況を教育委員の皆様と情報共有させていただければと思います。図書館の話等も出ましたので、先に議題の(3)をお願いしたいと思います。

3) 城北中学校区新統合小学校整備事業に係る計画について 【資料3】
宮本設計事務所から説明 (非公開資料)

学校教育係長)

ありがとうございます。資料3の2に平面図を添付してございます。設計事務所より映像で説明いただきましたが、現段階での配置図となっておりますのでこれを基にして今教育委員会の方でも事業を進めている状況でございます。委員の皆様から何かお気づきの点等ございましたらお願いします。

平野委員)

何点かお願いします。イメージしやすい画像を用意していただきありがとうございました。今見せていただいた段階で、理科室の入口が1つなのか2つなのか、見た感じだと1つのように見えるがどうなっていますか。

それから冬ですが、玄関から体育館へ行く通路に屋根があるのですが、雪の吹込み等考えて外側に冬囲いの板等を設置することになるのかどうか、そこまでしなくても良い設計になっているのか。

次に普通教室の関係ですが、各学年2学級ずつというスタートになりますが、将来1学級になることを考えた時に、可動式の間仕切りにして広く使ったり、間仕切りを取り払えば2学級一緒に学習できるというようなことも考えられるかと思いますが、固定式の壁になるのかどうかをお聞きしたいです。以上です。

宮本設計事務所)

1つ目の理科室の入口ですが、基本的に特別教室は扉を2こずつ付けるように計画しています。先程お見せした映像はこちらですが、正面に2箇所付いています。こちらには記載ございませんが、隣が準備室となっております。特別教室から準備室に直接入れるように、準備室には共用部の廊下から入れるように計画しています。

続きまして、雪の吹込みに関してですが、現在弊社でも検討を進めているところでございます。雪の吹込み、雪が押してきてこの回廊が通れないということは避けなければいけませんので、今の柱の部分に雪囲いのようなものを取り付けられる仕組みを考えていきたいと思っております。

続きまして、普通教室についての質問でございますが、基本的に今回の建物に関しま

しては、普通教室に対してオープンスクールのようにも使える学校ということを目指して設計を行っております。今回中央部分が共用部ということで、廊下幅も従来型の学校に比べますと比較的大きく幅を取っております。教室部分の間仕切り、建具を壁に全て引き込むように設計、検討しております。また、教室と教室の間仕切り壁ですが、現状の設計においては、安全性等考慮し、可動式の間仕切り壁でなく普通の壁で計画しております。その中で、現在鉄骨造で計画しております、こちらの壁が将来的に比較的壊れやすく、例えば2つの教室を1つにして使えるように考えながら計画を進めていきたいと考えております。以上です。

吉越職代)

3つお願いします。教室と職員室の廊下側が全面ガラスになっていますが、本当に全面ガラスになるのかというのが1つです。

体育館の通風と採光ですが、明かりは取れるのですが、通風のためには床と同じ高さの窓が欲しいのですが、今見たらあるのですが少し小さいような気がしますが、そこは十分に取れると大きさになっているのでしょうか。

3つ目は、昇降口の入口のところに張り出しの屋根が付いているが、その雪は、シーズン中放っておいて大丈夫なのか、雪下ろしをする形になっているのか教えて下さい。

宮本設計事務所)

まず、教室と職員室の部分についてご説明させていただきます。現在教室の部分は基本的にはこのような建具でやりたいというふうに考えています。ただし、完全に見えるガラスということではなく、少し曇っております教室の内部が直接的には見えないようなタイプの物を検討しております。教室からの明るさも共用部分に溢れ出てほしいという期待もございましてこのような計画となっております。また、職員室に関しましては、現在は透明なガラスを考えております、と言いましても職員室が生徒に対して一部開かれていても良いのではないかとということで、こちらの部分に関しましては透明なガラスを検討しております。先生の意見や教育委員会の話を聞きながら、例えば曇っているシートを張るのであったり、その辺は検討を重ねていきたいと考えております。

続きまして、体育館の通風に関しまして、今回の計画におきましては、本体の建物と体育館をくっつけている形で提案させていただいております。そのため、一部ではございますが西側の部分とすぐ北側に窓を検討しております。先程地窓という話も出ましたが、こちらの大きさに関しましては、壁の中にありますグレースという材料を避けながらなるべく大きな形でとれるようにしたいと考えております。2階部分と北側の窓もなるべく開けられるような設計を考えております重力的な風が入ってくるようなことで検討を進めております。

最後に昇降口の底の話ですが、基本的には雪を乗せておくようなことを考えております。以上になります。

西條委員)

質問ではありませんが、先程図書館の話が出ていた中で、入ってすぐの吹き抜けとフリースペースの図書館になっているところが、画像で見せていただいて、夢が広がる楽しみな空間だなと感じました。以上です。

学校教育係長)

他によろしいでしょうか。今お話しございましたが、これを基に進めてまいりたいと思えますのでよろしく願いいたします。宮本設計事務所さんありがとうございました。

市長)

それでは(2)のコロナウイルスの関係につきましてお願いします。

2) 新型コロナウイルス感染症への今後の対応方針について
事務局から説明

【資料2】

市長)

この関係で何かありますか。今国の方針で軽症者については、保健所は把握しないというか、報告しなくても良くなっています。そして、市町村ごとにも把握しないので今何人と言っているのは北信地域で65歳以上でかかった人と重傷者だけが何人というふうにニュースで流れてきます。飯山市で保健所に申請しなくていいような軽症者は市も県も分からない。当然、保育園や学校では何人と把握しているので、教育委員会とすれば分かるが特に報告はしなくて良いということですので、市長部局も報告があれば分かるが、無ければ分からないということです。

学校教育係長)

現状は各クラスで1名陽性者が出た場合にはすぐに閉鎖はせず、待機期間中に2名目が出た時点で学級閉鎖を検討ということで県からも通知が出ておりますので、今後緩和の状況もあるかもしれませんが、従前どおりの対応をしております。

市長)

それでは、議題につきましては以上の3点ですので通して何かございますか。無いようでしたら、議題については終了させていただきます。

4 その他

教育部長)

事務局からは特段お話することはございませんが、全体を通して何か皆様の方からございますでしょうか。よろしいでしょうか。

5 閉 会